



オンラインシンポジウム

## ライシテから「分離主義」へ

－1905年12月9日法問題からみるフランス社会と共和主義－  
2020年12月11日：日本時間 18:00-20:00 (フランス時間 10:00-12:00)



### 登壇者

伊達聖伸 (東京大学総合文化研究科准教授)

エマニュエル・オーバン (トゥール大学公法学教授)

シャルル・フォルティエ (フランシュ＝コンテ大学公法学教授)

### 通訳

金塚彩乃

(弁護士 (第二東京弁護士会及びパリ弁護士会) ・慶應義塾大学法科大学院非常勤講師)

### 司会

ピエール＝イヴ・モンジャル (トゥール大学公法学教授・日本ヨーロッパ局長)

### プログラム

伊達聖伸

「1905年12月9日法－フランスのライシテの功罪」

エマニュエル・オーバン、シャルル・フォルティエ

「2020年12月9日法案の分析－1905年12月9日法の改良か改悪か」

### 共催

基盤研究(A)：「西洋社会における世俗の変容と「宗教的なもの」の再構成

－学際的比較研究」課題番号 20H00003 (2020年度-2023年度)

東京大学東アジア藝文書院

参加をご希望の方は以下のフォームからご登録ください

<https://forms.gle/BAGZ7G5EwxqMdQuij9>

